

1 災害出動状況（消防隊の出動件数）

2024年の災害出動状況については、【表1】のとおりです。

【表1】2024年の災害出動状況

出動項目	内 容	出動件数	昨年比
		11,501 件	▲174 件(1.5%)減少
火災	火災	386 件	▲6 件(1.5%)減少
水災	雨に起因して発生した災害	16 件	4 件(33.3%)増加
水火災以外の災害	交通事故、室内の閉じ込め、ガス漏れ、危険物の漏洩事故等、火災・水災以外の災害に出動した事案	3,075 件	89 件(3.0%)増加
特定救急	傷病者が心肺停止状態の場合に救急隊の支援目的に消防隊が出動した事案	1,595 件	21 件(1.3%)増加
支援救急	救急隊の活動支援目的に消防隊が出動した事案	2,372 件	▲177 件(6.9%)減少
誤報	通報者の誤認や自動火災報知設備等の誤作動等、消防機関が出動したが、災害ではなかった事案 または、自動火災報知設備等が有効に作動し火災を未然に防いだ事案	2,654 件	▲118 件(4.2%)減少
虚報	通報者が非災害に対し、故意に通報し、消防機関が出動した事案	20 件	2 件(11.1%)増加
市外応援	応援協定等に基づき、市外の災害に出動した事案	22 件	4 件(22.2%)増加
その他	発生から1週間以上経過後に通報があった火災、上記以外で出動した事案（統計外・延焼受火災含む）	1,361 件	7 件(0.5%)増加

2 火災出動状況

(1) 火災の概要

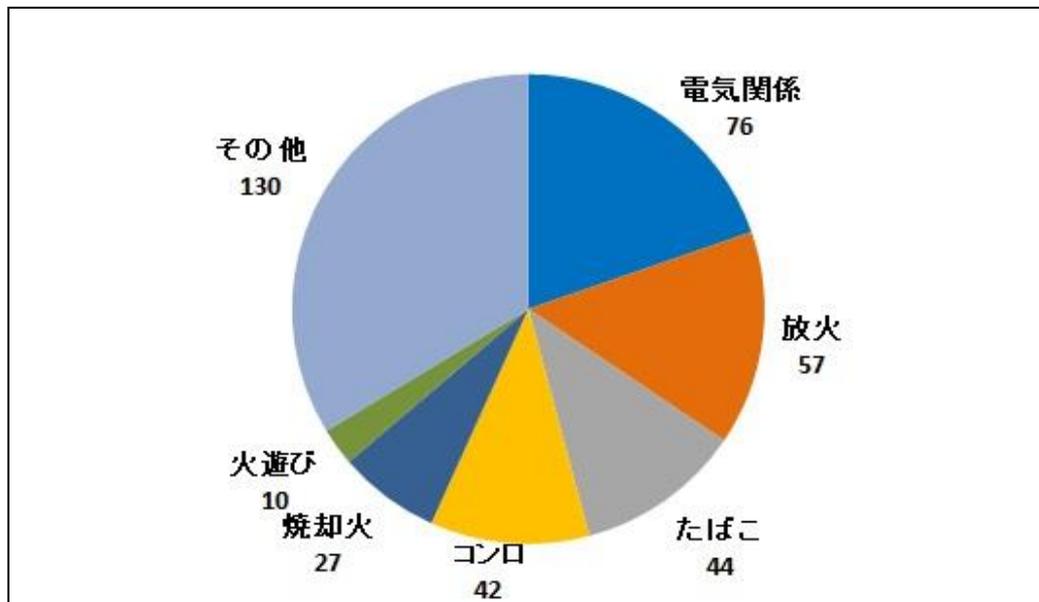
火災件数は 386 件で、前年と比較し 6 件減少しました。「電気関係」が原因の火災が 76 件で前年から 3 件減少しましたが、火災件数全体の 19.6%を占めています。特にリチウムイオン電池が起因する火災が増えており、純正品を使うことや、変形したバッテリーなどは使わないなどの対策が重要です。



【図1】火災件数

(2) 火災の原因

火災の主な原因は1位が「電気関係」、2位が「放火」、3位が「たばこ」、4位が「コンロ」でした。「電気関係」は前年に引き続き出火原因の1位となっています。

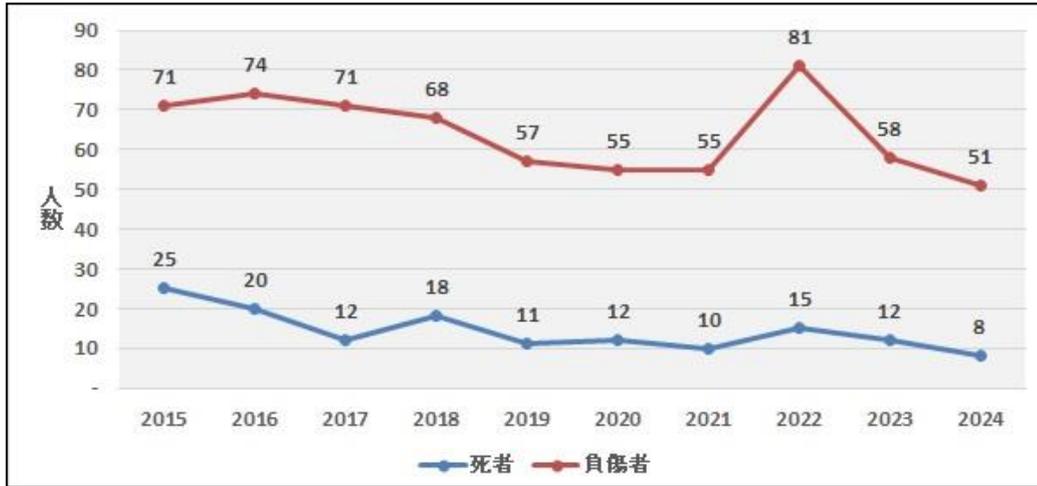


【図2】出火原因別火災件数

(3) 死傷者の状況

火災による死者は8人で前年から4人減少しました。そのうち住宅火災による死者は6人で前年から3人減少しています。

また、火災による負傷者は51人で、こちらは前年から7人減少しています。



【図3】火災による死者・負傷者数

(4) 住宅火災の危険性と住宅用火災警報器の効果について

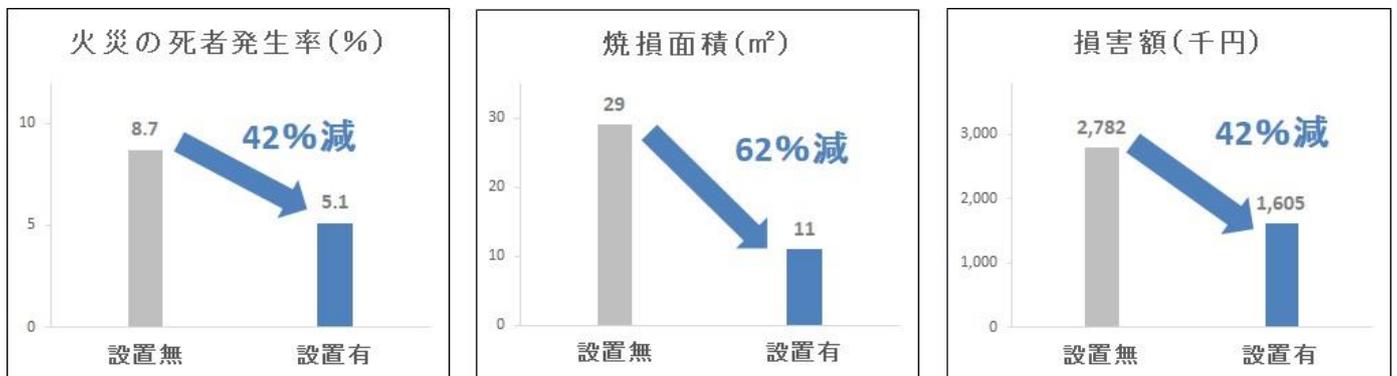
住宅火災は129件で、前年から11件減少しました。また、火災による死者の多くが住宅火災によるものとなっています。

損害の状況を住宅用火災警報器設置の有無で比較すると、死者、焼損面積、損害額のいずれにおいても大幅に減少しています。

【表2】住宅火災による死者数

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
火災による死者の総数	25	20	12	18	11	12	10	15	12	8
住宅火災による死者数	20	15	8	12	9	8	5	12	9	6
住宅火災の件数	161	152	153	157	136	140	114	140	140	129

注:住宅火災による死者数には、放火自殺者は含まない。



【図4】過去5年間の住宅用火災警報器設置の有無による損害比較

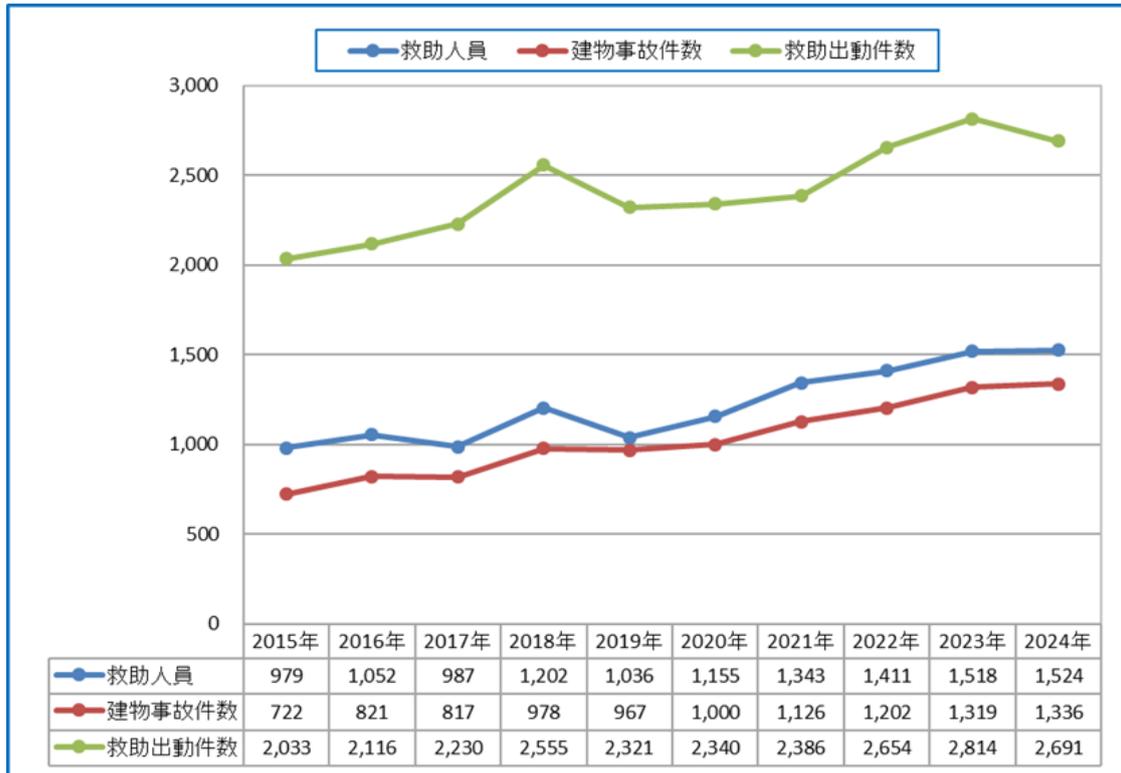
3 救助出動状況

救助隊が出動した件数は2,691件で、昨年から123件（4.5%）減少し、1,524人の方を救助しています。

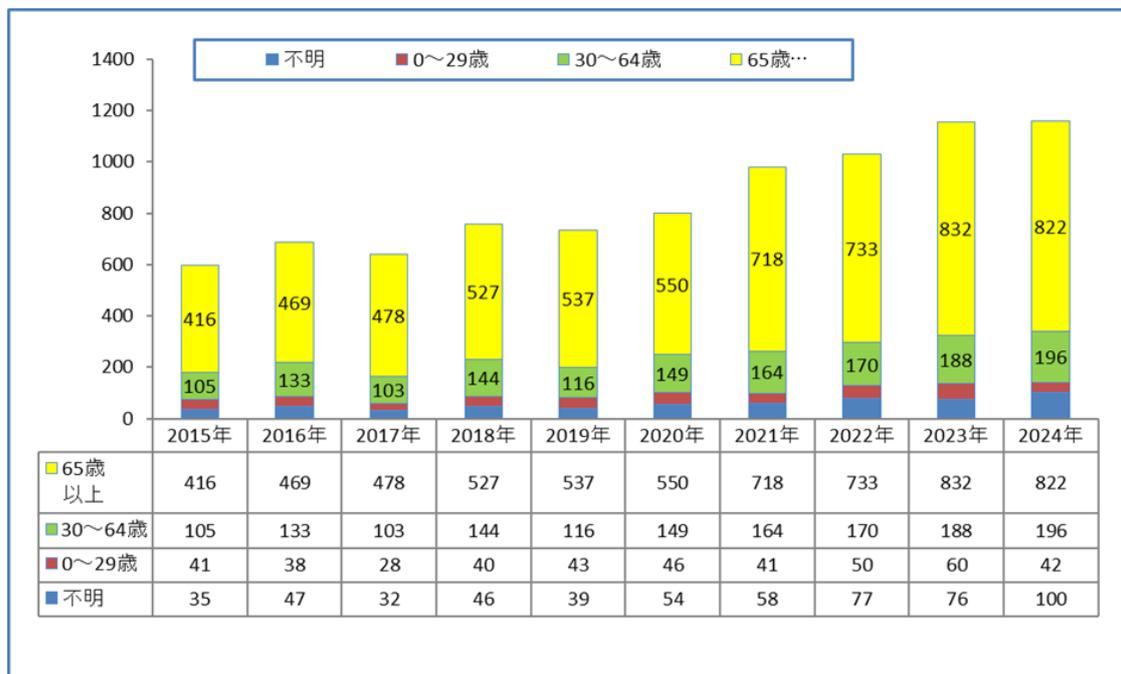
救助出動件数のうち建物事故（施錠された建物内に急病人が閉じ込められている等）が1,336件と最も多く、昨年より17件（1.3%）増加しています。

救助人員1,524人のうち、建物事故における救助人員は1,160人で、その内訳を見ると65歳以上の方が822人と最も多く、70.9%を占めています。

建物事故対策として家庭内での事故防止や地域での見守りが大切です。



【図5】救助隊出動件数



【図6】建物事故の年齢別救助人員

4 救急出動状況

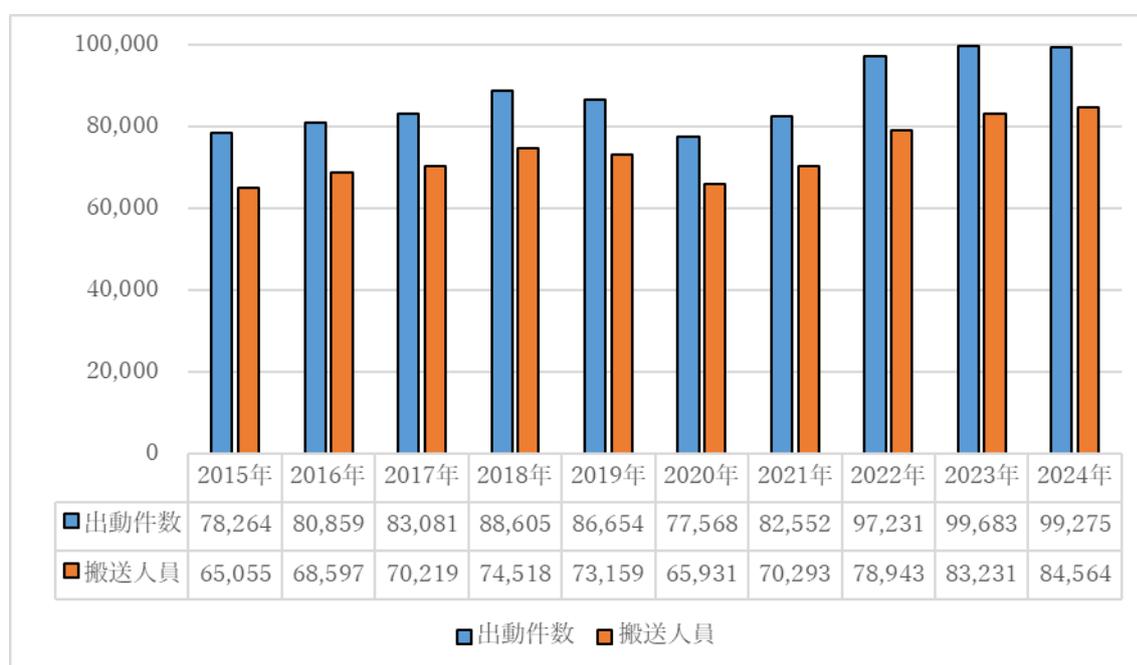
(1) 全体の概要

救急出動件数は 99,275 件、搬送人員数は 84,564 人と前年から救急出動件数は 408 件 (-0.4%) 減少し、搬送人員は 1,333 人 (1.6%) 増加しました。

神戸市では近年の救急需要の増加について対策を講じているところですが、個人でも熱中症や感染症の予防などの対策も大切です。

急な病気やケガで、救急車を呼ぼうか迷った時は、救急相談ダイヤル「救急安心センターこうべ (#7119)」にご相談ください。

病院などに行きたいけれど、手立て（交通手段）に困っているという方は、最寄りのタクシー・介護タクシーを紹介するコールセンター「おくる電 (050-3733-7555)」をご活用ください

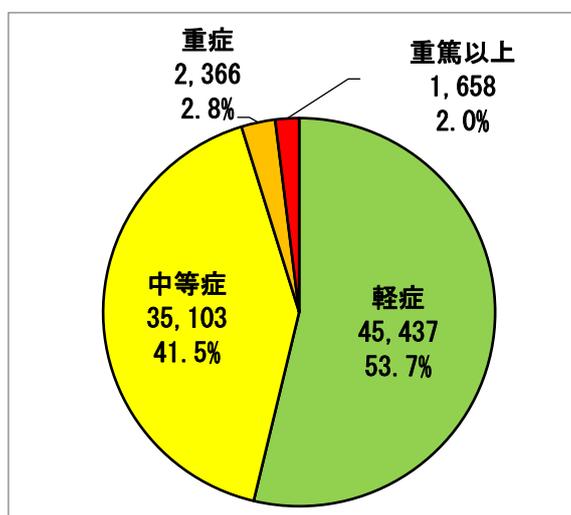


【図7】 救急出動件数と搬送人員数

(2) 傷病程度ごとの搬送状況

傷病程度ごとの搬送人員数は、入院を要しない「軽症」が最も多く 45,437 人で、全体の 53.7%を占めています。続いて3週間未満の入院が必要な「中等症」が 35,103 人 (41.5%)、次に、3週間以上の入院が必要な「重症以上」が 4,024 人 (4.8%) となっています。

前年（令和5年）と比較すると、「軽症」は 24 人減 (0.1%減)、中等症は 1,475 人増 (4.4%増)、「重症以上」が 118 人減 (2.8%減) となっています。



【図8】2024年 傷病程度ごとの搬送状況（人）

(3) 事故種別ごとの出動件数

事故種別ごとの出動件数は、「急病」が最も多く、65,355 件で全体の 65.8%を占めています。続いて「一般負傷」17,489 件 (17.6%)、「転院搬送」6,955 件 (7.0%) と続きます。

昨年と比較すると、転院搬送 (4.5%増)、運動競技 (13.0%増) などのように増加したのもある一方で、交通事故 (4.1%減)、自損行為 (8.7%減) のように減ったものもありました。

【表3】事故種別ごとの出動件数（件）

種別	2024年		昨年比	
	件数	割合	件数	増減率
急病	65,355	65.8%	▲ 16	0.0%
一般負傷	17,489	17.6%	27	0.2%
転院搬送	6,955	7.0%	300	4.5%
交通事故	4,227	4.3%	▲ 179	-4.1%
自損行為	804	0.8%	▲ 77	-8.7%
労働災害	561	0.6%	17	3.1%
運動競技	486	0.5%	56	13.0%
加害	358	0.4%	▲ 7	-1.9%
火災	210	0.2%	▲ 29	-12.1%
水難	21	0.0%	▲ 4	-16.0%
医師搬送	6	0.0%	▲ 3	-33.3%
資器材等	1	0.0%	0	0.0%
自然災害	0	0.0%	0	0.0%
その他	2,802	2.8%	▲ 493	-15.0%
合計	99,275	100.0%	▲ 408	-0.4%

(4) 年齢別の搬送状況

年齢別の搬送人員数は、「65歳以上」が55,025人と、全体の65.1%となっています。

昨年と比較すると、特に「乳幼児」が486人（15.4%増）と大きく増加している一方、「1～6歳」は3,082人（18.7%減）と大きく減少している年齢層もあります。

【表4】年齢別の搬送人員数（人）

年齢	2024年		昨年比	
	人数	割合	人数	増減率
新生児	219	0.3%	13	6.3%
乳幼児	486	0.6%	65	15.4%
1～6歳	3,082	3.6%	▲ 709	-18.7%
7～17歳	2,682	3.2%	147	5.8%
18～29歳	5,123	6.1%	▲ 46	-0.9%
30～39歳	3,411	4.0%	▲ 236	-6.5%
40～49歳	4,105	4.9%	▲ 353	-7.9%
50～64歳	10,431	12.3%	5	0.0%
65歳以上	55,025	65.1%	2,447	4.7%
合計	84,564	100.0%	1,333	1.6%